

備える。

準備。予備。整備。技術。守備。警備。
そなえる…用意する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ…しだく、用意、警戒、防衛
備品。設備。備蓄。備員。備忘。備忘。
そなわる…準備ができる、身に付く
●●●ソナエ アレバ ウレイナシク

no. **3**

かわさき
防災広報紙

昭和59年9月30日発行
編集・発行：
川崎市土木局防災対策室
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841



家内安全

シキリタケヨククニ

do it yourself!

トカトントントントント。

いつもは、動かそうとしてもビクともせず、居間や台所にドツカリと居坐っているダンスや冷蔵庫…。それが勝手に動き出すなどと、ふだんはとても考えられません。

しかし、**一たび大地震が起こったら…。**

冷蔵庫が動き出したり、ピアノがダンブカーのように走り出したり、ワゴンが台所の中を駆け回る…。という光景が現実のものとなります。また、本棚はもちろん、ほとんどの家具が倒れ、額縁やシャンデリアのようなものが、落ちてきます。

わたしたちの身の回りには、地震のとき危険となるものが、いっぱい、家の中だけでなく、家の回りにも。また、家自体も心配です。地震に備えて、マイホームの点検をしてみましょう。

●ブロック塀や家の改修方法など、くわしいことについては、専門家または市建築局審査課・指導課、各区役所建築課にご相談ください。

●ダンス、本棚など背の高い家具類は、転倒しないように止めるか、置き場所に注意しましょう。

まず、できることから。自分でできることから。





バリ、バリ、ドスン——直径2mを越す大岩が崩れ落ち、倉庫を押しつぶして町道をふさいだ（小入川の通称・曲がり留で）



倒壊したブロック塀を取り除く住民。民家は大きく傾き地震のすさまじさを見せつけた（若美町で）

わが家の安全。

わが家のチェックポイント

現代の私たちの住まいの中は、家具や様々な生活用具でいっぱいです。これら便利な道具達も、大地震の際には、転倒したり、落下したり、ときには部屋の中を走り回ったりで、恐ろしい凶器に変身するのです。これによって大ケガを負ったり、火の始末や消火活動も阻害されたりしてしまいます。部屋の大小の道具類はすべてを頑丈に固定しておくようなわけにはいかないとしても、せめてタンス、本棚、ピアノといった背の高い大きな家具だけでも転倒防止策を施しておきましょう。図(A)(B)は日曜大工でこなせる程度の方法です。建物が鉄筋コンクリート造で鴨居などのない部屋の場合には専門家に相談いたしましょう。

その他の生活用具にも種々の対策が考えられますが、要は日頃から危険な物の積み上げをしない心がけが大切だと言えるようです。

○ たんす、本棚、戸棚などの背の高い家具類は転倒しないようにとめるか、置き場所に注意しましょう。壁にキズをつけずに使用できる市販の固定器具もいろいろありますが、目的に合わせて正しく使用しましょう。

○ 食器戸棚は、一般に戸にガラスを用いておりますが、戸棚を固定するだけで、中の食器が戸のガラスに当たってこわれたり、戸のガラスがこわれることを防ぐのに効果があり、更に戸のガラスにガラス飛散防止用フィルムを貼ると、ガラスが破れたとき破片が室内に飛散することを防ぐのに大変効果があります。

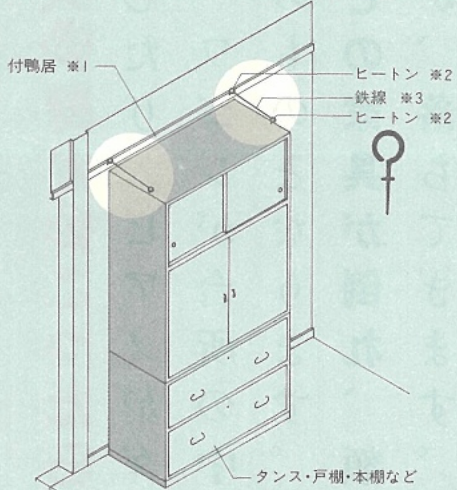
○ ピアノなど重いものは、洋間や板床に置くようにし、床の基礎はあらかじめ丈夫にしておきます。（根本は15cm間隔程度にする。）

●ケガの原因

ガラス	698人(22%)
落下物	675人(21.5%)
転倒	538人(17.1%)
衝突	144人(4.6%)
やけど	93人(3.0%)
その他	993人(31.6%)
合計	3,141人(100%)

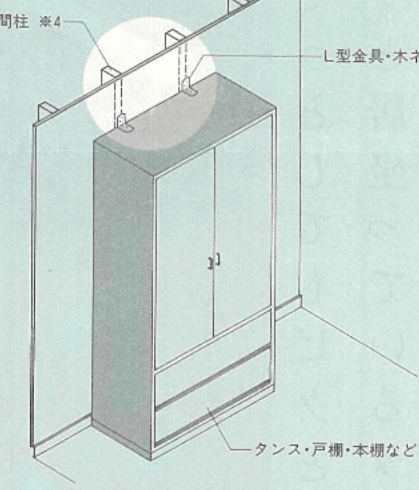
昭和53年の宮城県沖地震では、ケガをした人の70%は、家（建物）の中です。家具などを固定しておけば、ふせげたものもたくさんあります。

(A) 和風・真壁造で付鴨居(長押)などがある場合



- ※1—家具の頂部近くに鴨居がない場合には、左右の柱に木ネジで固定するかたちで特別の横桟木を設けます。
- ※2—クギは抜けやすく不適。ネジ込み式のヒートンを用いましょう。
- ※3—鉄線の傾斜はできるだけ水平に。

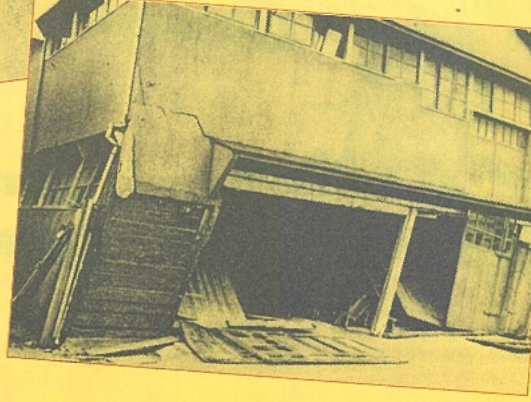
(B) 大壁造の場合



- ※4—たたいたり（音で判断）、試しクギといった方法で間柱の位置を確認します。
- ※5—最近では、専用に工夫された金具もあり、金物店や日曜大工店などで入手できます。また、木ネジは間柱に十分とく長さのものを用います。



畳がむくむく盛り上がり、住居は四方に傾いた。テーブルが畳にしがみつこうが格好でそのまま置かれている。異様としかいえない住まいとなった（黒岡で）



モルタル造りの木材工場も地震で大きく右へ傾いて倒壊寸前。隣家への影響も心配された（川反町で）



地震直後、ロッカー、書類タナは軒並み倒れ、書類などが足の踏み場もないほど散乱した（能代市役所で）



男鹿半島のつけ根にある若美町では家屋が壊れ、ブロック塀が倒れ、道路に亀裂が走り、コンクリート柱が傾いた。



床下を亀裂が走った。天井板が落ち、玄関がへし曲がりいまにも倒れそうな住宅(浜浅内)

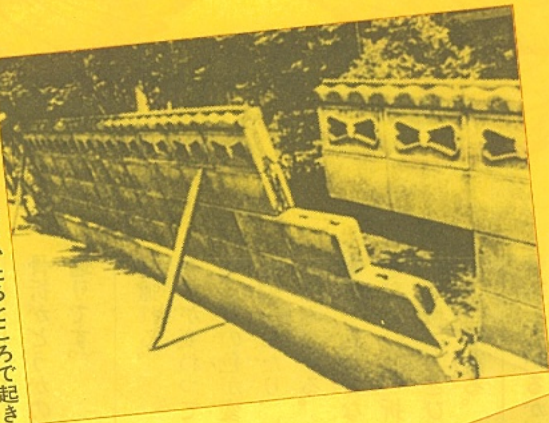
火事に強い土蔵も無残。外壁は揺れるたけにもろくも崩れ、コンクリートのヘイビも粉々となって路上を覆った(柳町)



激しい揺れで、家がつぶされ壁も崩れた(浜田)



ガチャ、ガチャ。陶器店の被害も大きかった。倉庫のタタの陶器やガラス製品が床に落ち粉々となった。(柳町)



ブロック塀の倒壊もいたるところで起きたが、崩れそうな塀は危険なため放置できず、取り壊しの運命に(長崎)



突然襲った巨大地震。大地にしゃがみ込み不安な表情で揺れの収まるのを待つ保育所児童。恐怖のあまり先生に抱きつく子も(琴丘保育所)

ブロック塀のチェックポイント

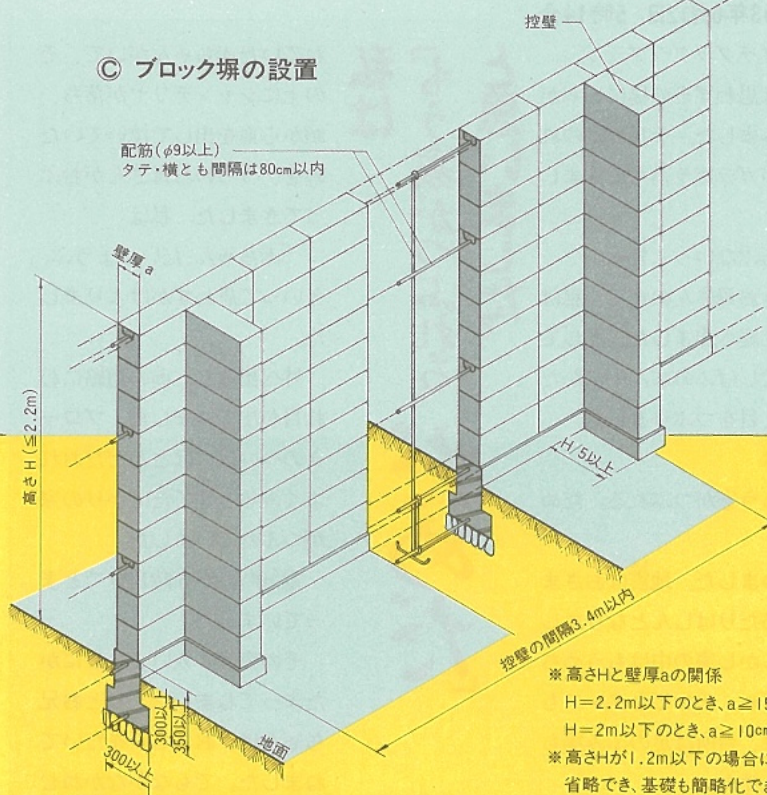
- ひびがないか？
- かたむいていないか？
- 鉄筋が入っているか？
- 控え壁があるか？
- 基礎がしっかりしているか？
- 宮城県沖地震では、ブロック塀の倒壊が続出し、死者を出しました。そして、鉄筋が不十分だったり、控え壁がなかったり、構造物としてまちがいだらけの危険なブロック塀が多かったことがわかり、世間をびびくりさせました。
- わが家のブロック塀が安心かどうかは、建築士など専門家の検討に

建物のチェックポイント

(一般的な木造住宅についてのものです)

- 瓦などの重い屋根ではないか？
- 壁が少なかつたり片寄つたりしていないか？
- スジかいはあるか？
- 2間をこえる開口部や全面開口部がないか？
- シロアリがいたり腐つたりしていないか？
- 基礎にキレツがあったり、コンクリート以外の基礎を使用していないか？
- 盛土や湿地の地盤ではないか？

◎ ブロック塀の設置



ブロック塀、レンガ塀が倒れる被害も相次いだ。秋田市大町の駐車場では乗用車二台がベンチヤンコに押しつぶされた。

● 改修方法などくわしいことについては専門家または建築局審査課、指導課、各区役所建築課にご相談ください。

燃える、秋。

行楽のシーズン到来!

家族で、職場でと、楽しい旅行の計画が、たくさんあると思います。心配されるのは、宿泊先での火災や地震です。

旅先での火災や地震に備える

旅館・ホテルなどは、その規模に応じ、避難設備や消防の設備など安全のための施設を完備し、管理体制をととのえることになっています。

しかし、火災や地震が発生したとき、こうした施設や管理体制が100%生かされたとしても、わたしたちの行動の細かいことまでは指示されません。

災害から身を守るには、最小限「これだけは」という心得を身につけておくことが、安全のための施設の活用や、混乱を防ぐことに役立ち、自らの安全につながると思います。



ホテルに着いたら

- 避難通路案内を見て、非常口がどこにあるか、また、二つ以上の避難通路を実際に歩いて確かめておく。
- 非常用の懐中電灯は点灯するか確かめておく。
- 窓の外はどうなっているか、あなたの部屋から避難できるかどうか確かめておく。
- 避難器具のある場所と使い方を確かめておく。
- 宴会場、バーコーナー・スナックコーナーに行ったときも少なくとも非常口は確かめておく。
- 非常ベルのある場所を覚えておく。

エレベーター

- 自分の近くで火災が起きたら、すぐに非常ベルを鳴らし、フロントに連絡する。
- 着ているものなどは気にしないでそのまま避難する。
- 煙は上方ほど濃いもの。できる限り背を低くする。ぬれタオルが役に立つ。
- 地震、火災のときは、エレベーターを使わない。
- 非常口に殺到しない。避難はおちついて行う。
- 一度避難したらひき返さない。



★応急手当……レッスン⑥ 骨が折れたら

骨折かどうかの判断の目安は次の通りです。

- 腫れる。
 - 形が変わってくる。
 - 皮膚の色が変わってくる。
 - 動かしたり、触れるとげしい痛みがある。
 - 動かせなくなる。
 - ひどいと、折れた骨の端が皮膚を破つてとび出し、出血を伴うことがある。
- 骨折しているかどうかわからない時は、骨折していると考えて手当てをしておきましょう。
- 1 骨折部を安静にします。
 - 2 副子(添え木)を当て、動かないように固定します。副子は骨折部の上下の関節を含めることのできる長さで、十分な硬さ、幅のあるものを使いましょう。身近にある板、ダンボール、新聞紙、週刊誌、カサなども利用できます。
 - 3 副子を当てた後、出血や腫れのために血行障害を起こすこともあるので、約30分おきくらいに、しばり具合を調べます。副子がないときは、腕の骨折なら三角巾等で吊って体に、足の骨折なら健康な側の足に固定します。
 - 4 痛みのはげしい部分を冷やしましょう。
 - 5 きずのある時は、きず口は洗わず、清潔な布やガーゼをあてます。突き出ている骨折は押しこまないようにします。
 - 6 取り扱いや運搬に注意して、医師の診療を受けます。



私は「もう家がつぶれる。だめだ」と思いました。

ねていた赤ちゃんがいて、その上にシャンデリヤが落ち、頭から血を出して泣いていたのを、うちのお母さんがおぶってきました。私は「赤ちゃん、だいじょうぶ。」とって思わずかけよりました。

外へ出ると、前の道路にわれ目が出ていました。ブロックのへいは、ほとんどたおれ、よくみると建てたばかりの家がつぶれていました。

電気時計が5時14分でとまっていました。

その夜は4人いっしょにかたまっておりました。私とお兄ちゃんは、おまもりをだいてねました。でもなかなかねわれませんでした。



ホーサイ君



体験談 その3 おき 宮城県沖地震

仙台市立高砂小学校4年 高橋明子さんの作文です。

昭和53年6月12日 5時14分

「グラグラグラッ。」私は思わずその場にしゃがみこみました。テレビはゆれ、何かがガラガラ落ちてきました。

「あぶないっ 外へ。」というお母さんの声で、私はむ中で庭へ出ました。そして3人でしばふのまん中にかたまり、目をつぶりました。

私は「もう家がつぶれる。だめだ。」と思いました。地震はおさまり、あたりはしんとなりました。しかし家の中はもうめっちゃめっちゃ、テレビもタンスもおれ、台所は足のふみ場もありません。

お兄ちゃんも私もけがはありませんでしたが、お母さんはからだ中けがだらけです。足の肉がぐっとめりこんでいました。手にはすり傷、そしてかたにはまっ黒いあざが出ていました。

近所の人たちが青くなって出てきましたが、ほとんど手足をけがしています。1人で